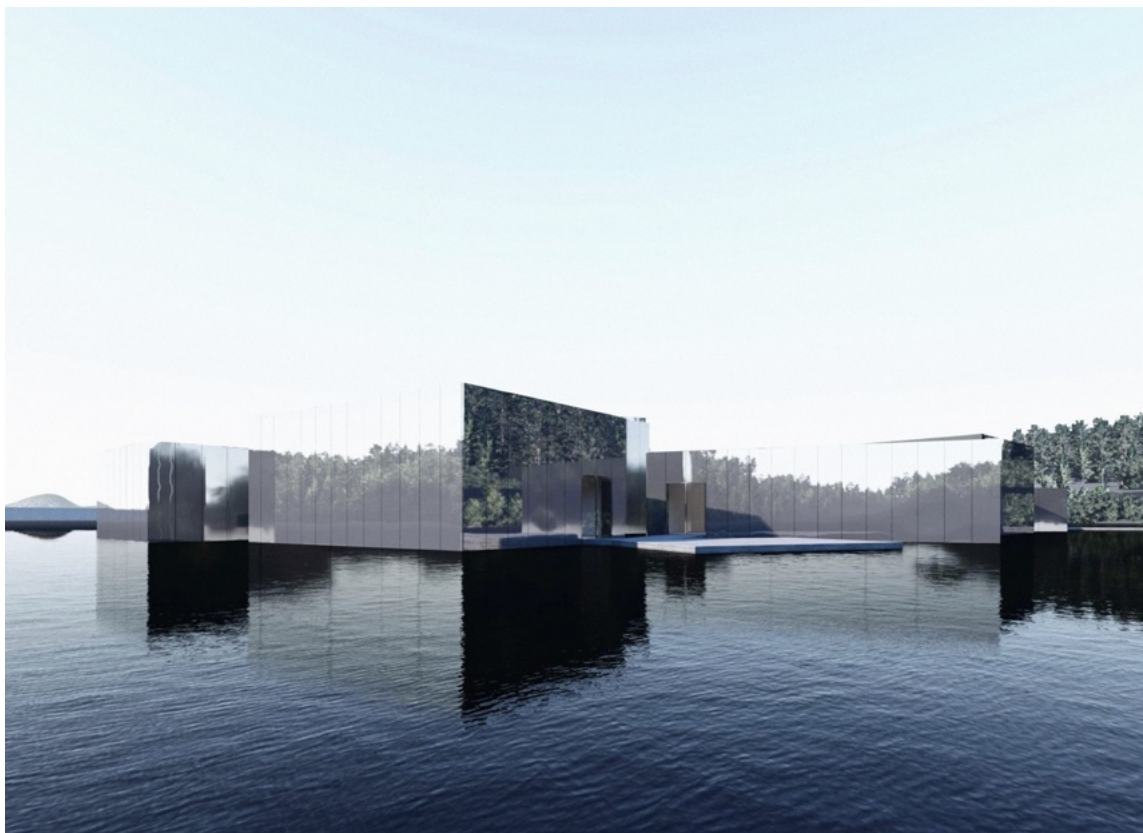


2024年6月、韓国の全羅南道新安郡・安佐島に、  
国際的に活躍するアーティスト・柳幸典が構想した水上に浮かぶ美術館  
「FLOATING MUSEUM（仮称）」が開館予定。



FLOATING MUSEUM（仮称）外観イメージ  
建築設計：YANAGI + ART BASE

韓国の新安郡・安佐島（Anjwa-Do, Shinan County）にアーティスト・柳幸典が率いるチーム「YANAGI + ART BASE」の設計による美術館「FLOATING MUSEUM（仮称）」が2024年6月に開館を予定しています。新安郡は韓国の最西南端に位置し、多数の島々から成る人口約3万人の自治体です。島々では少子高齢化や若者が都市へ流出するなど、人口減少に直面しています。地域活性化のため、新安郡主体で一つの島に一つの博物館または美術館を建設する「1島1ミュージアム」プロジェクトが2019年に立ち上がり、「文化芸術の島」を目指しています。このプロジェクトで安佐島の総合監督になった姜瑩基（Hyoungkee Kang）が、岡山県の犬島精錬所美術館（2008年竣工）におけるアーティストの仕事に着目したことから、YANAGI + ART BASEによる「安佐島全体のグランドデザインを手がける『安佐島プロジェクト（Anjwa-Do Project）』」が始まりました。

柳は、YANAGI + ART BASE としてアートと建築のあわいで様々な専門家と協働し、前例のない数々のプロジェクトに挑戦してきました。その最新作となる美術館「FLOATING MUSEUM（仮称）」の概要をお知らせします。

## 安佐島プロジェクトの中核となる美術館「FLOATING MUSEUM（仮称）」

安佐島プロジェクトは、アート作品と建築の意匠を一体化した美術館「FLOATING MUSEUM」を軸に、レストランやチケットセンター、植物園など、安佐島全体のランドデザインを「YANAGI + ART BASE」が設計・監修しています。

中核となる安佐島のシンチョン貯水湖に浮かぶ7つのキューブは、韓国全羅南道西部の多島海および地球の大陸の数を表し、大きさが違う各キューブは鏡素材の外壁により風景を擬態するとともに、鏡面相互の重複した映り込みによる方向喪失感と、大地から切り離された浮遊感は不安定な現代を表象しています。そして各キューブ内は、安佐島の自然とユーラシア大陸の最東端に位置する朝鮮半島の歴史的メタファーを想起させる作品を建築と一体化させた、サイトスペシフィックな空間になっています。

柳幸典（安佐島プロジェクト アーティスト／芸術監督）



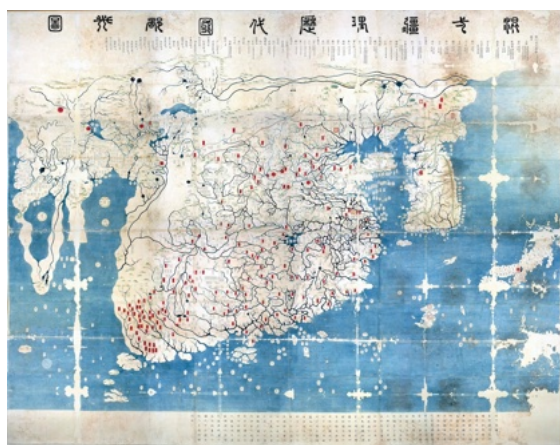
FLOATING MUSEUM（仮称）外観イメージ  
建築設計：YANAGI + ART BASE

## 美術館「FLOATING MUSEUM（仮称）」の7つのキューブ構成

韓国全羅南道西部の多島海および地球の大陸の数を表すキューブで構成されており、4つのコンセプトと3つの機能を備えています。

### CUBE 1 ユーラシア大陸と蟻 《EURASIA 2021》2021、《GANGNIDO》2021

柳の代表作である「アントファーム」シリーズの新作《EURASIA 2021》と《GANGNIDO》を展示。《EURASIA 2021》は、2021年現在のユーラシア大陸の国々の国旗をかたどった砂絵の作品で、この砂絵の中を蟻が移動して巣穴を掘り進め、現代社会のフレームを脱・再構築していく。《GANGNIDO》は現存する世界最古の世界地図の一つである「混一疆理歴代国都之図」（혼일강리역대국도지도/Honil Gangni Yeokdae Gukdo Ji Do）の通称で、1402年に李氏朝鮮で描かれた原本の複製2枚のみが現存し、どちらも日本国内に収蔵されている。この図の中心にあるのは大きなユーラシア大陸で、日本や西欧諸国、アフリカ大陸などは想像上で描かれ、独特の地形となって現れており、多くの地名は当時の世界帝国を築き上げたモンゴル帝国時代のものである。この「混一疆理歴代国都之図」を題材とした「アントファーム」シリーズ《GANGNIDO》は、ユーラシアにおける朝鮮半島と日本列島の文化や人の移動の歴史的想像力を喚起する作品である。



【参考図版】左：《The World Flag Ant Farm 1990》1990 ©YANAGI STUDIO、右：混一疆理歴代国都之図 長崎県島原市本光寺蔵

### CUBE 2 漆黒の空間の泥の玉 《Wandering Mud》2024

新安郡の干潟は韓国最大規模で、絶滅危惧種が生息する宝庫としてユネスコ自然遺産に登録されている。その干潟の泥を使用した本作は、宇宙空間を思わせる漆黒の中空に漂う巨大な泥の玉である。ヘリウムガスにより重力から逃れ漆黒の空間を漂う新安の泥は、宇宙における生命の元となる希少なエレメントとして体感することとなる。

### CUBE 3 光の空間の塩の玉 《Wandering Salt》2024

広大な塩田のある新安郡は、韓国内最上級の天然塩の88%以上を生産している。その塩でつくられた巨大な球体は、境界線がホワイトアウトした光の空間の中心に鎮座する。CUBE2の泥の玉の空間と対照的な空間で、地球—生命のエレメントのメタファーを想起する。



【参考図版】《Ground Transposition》1987/2019  
「Parergon: Japanese Art of the 1980s and 1990s」Blum&Poe（ロサンゼルス）  
©YANAGI STUDIO

#### **CUBE 4 太陽と鉄 《Icarus Cell（仮称）》 2024**

鉄板の隧道を天空に向かって人が導かれていく。鏡の幻影で一直線に見える隧道が実は迷路の構造になっている。本作品は、ギリシャ神話での飛翔するイカロスが太陽（神）に近づきすぎて焼け落ちてしまうことのメタファーとしての近代主義批判である。水面に浮かぶ7つのキューブの鏡面による方向喪失感と浮遊感も同様に本美術館の核となるコンセプトとして本作品と一体性を成す。



【参考図版】 《Icarus Cell》 2016  
「Wandering Position YUKINORI YANAGI」 BankART Studio NYK（横浜）  
©YANAGI STUDIO Photo by Tatsuhiko Nakagawa

#### **CUBE 5 アーカイブルーム（企画展示室）**

安佐島プロジェクトのアーカイブ映像を上映予定

#### **CUBE 6 オフィススペース／休憩室（仮）**

#### **CUBE 7 プロジェクトルーム（企画展示室）**

## プロジェクト概要

**プロジェクト名：**安佐島プロジェクト

**美術館名称：**FLOATING MUSEUM（仮称）

**所在地：**韓国全羅南道新安郡安佐島

**建築主：**韓国全羅南道新安郡

**開館：**2024年6月予定

構想期間：2018年11月～2019年5月

設計期間：2019年6月～2020年12月

施工期間：2021年6月～2024年5月

**総合監督：**姜瑩基（Hyoungkee Kang）

**芸術監督・アート：**柳幸典

**建築設計：**YANAGI + ART BASE

ディレクター／アーティスト：柳幸典

アーキテクト：榎原徹

ビデオグラファー：泉山朗士

プロジェクトマネジメント：YANAGI STUDIO

設計協力：SPACE GROUP

コーディネート：Hzone

施工：Young Chang Construction Co.

ポンツーン制作・進水：BLUE OCEAN TECH Co.

イカロス設計協力：GEEUMPLUS

イカロス施工：MBK KOREA Co., Ltd. / C2 Artechnolozy Co., Ltd.

照明施工：STUDIO FORMGIVER

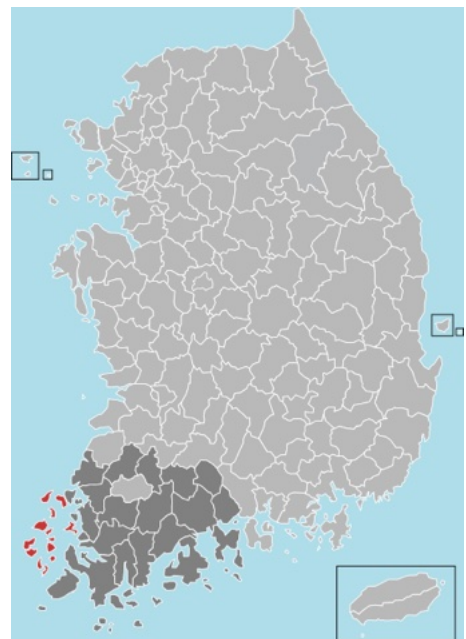
制作協力：Salt Hill / ART & FORMATIME

撮影協力：KUNST

### 新安郡・安佐島

安佐島を有する新安郡は、韓国の最西南端、全羅南道という多島海に位置する人口約3万人の自治体。有人島72島、無人島932島の計1004島で構成され、韓国で数字の「1004」は、「天使」の発音と同じであることから「天使の島」と呼ばれており、小都市のすべてが島という地理的特性を持っています。

安佐島は、1917年に東側の「安昌島」と西側の「箕佐島」の2つの島の間にあった干潟を干拓事業で埋め立て、2つの島の名前を合わせて生まれました。安佐島は新安郡で一番大きな島で総面積59.88km<sup>2</sup>、人口は約3千人で、新安郡の島々を結ぶ連絡港を持つ交通の要所です。かつては平野のない起伏の多い土地でしたが、大規模な干拓事業を通じて稲作と塩田による塩づくりが盛んになりました。また、韓国抽象絵画を代表する画家の金煥基（Kim Whanki, 1913-1974）の故郷であり、その生家は国家民俗文化財に指定されています。韓国の近現代美術史において先駆者的な役割を果たした金煥基の出発点という象徴的な文脈とともに歴史的・文化的価値が認められています。



出展：ウィキメディア・コモンズ（赤い部分が新安郡）

## プロジェクト背景

安佐島プロジェクトは、韓国全羅南道新安郡が地域活性化事業の柱として2019年より取り組んでいる「1島1ミュージアム」プロジェクトにおける安佐島の総合監督になった姜瑩基（Hyoungkee Kang）が、新安郡の多島海の風土と日韓の歴史的繋がりを重要視しながら参考事例のリサーチを進めていたところ、瀬戸内海の「犬島精錬所美術館」に着目したことに始まります。

犬島精錬所美術館の誕生は、アーティスト・柳幸典が1995年に犬島と出会い、銅の製錬所遺構の廃墟を中心に島をアートで再生させようと構想したことが契機となりました。江戸時代は石切業、1900年代初めは製錬で栄えた犬島をとりまく日本の産業史や、島の特性を背景に「あるものを生かす」という柳の構想が、福武総一郎（当時ベネッセコーポレーション社長）の考えと重なり、「製錬所遺構をアートと一体化した美術館に再生するプロジェクト」が動き出します。2005年に協働する建築家として地元から三分一博志を抜擢し、構想から約13年の歳月をかけて、2008年に完成します。

犬島でのアーティストによる働きを評価した姜は、2018年に安佐島の視察を柳に依頼しました。そこで柳は、美術館建設予定地として案内された敷地の中央にある農業用貯水湖に注目します。ユネスコ自然遺産に登録されるほど数多くの希少な生物が生息する生態系の宝庫となっている干潟や、韓国で塩の最高級品とみなされている天然塩の88%以上を生産している広大な塩田など「特色ある景観を最大限に生かし」ながら地域全体を再生していくランドデザインを提案します。「御本尊のない箱を作っても意味がない」という柳の美術館に対する思想が裏打ちされたプランに姜が共鳴し、柳のチーム「YANAGI + ART BASE」が湖に浮かぶ美術館「FLOATING MUSEUM（仮称）」を中心に周辺環境を整備するプロジェクトがスタートしました。

2018年から6年、日韓関係の悪化や新型コロナウイルスの影響により渡航ができなくなるなど困難な時期を経て、当初の予定よりも時間を費やしましたが、犬島精錬所美術館に続く、柳幸典による美術館構想の第二弾がいよいよ今年2024年に具現化します。



【参考図版】  
上：犬島精錬所美術館 空撮  
福武財団 Photo by Yukinori Yanagi

中：Anjwa Art Site Project 2019（2019年2月視察時のスケッチ）  
©Yukinori Yanagi

下：FLOATING MUSEUM（仮称）模型  
各キューブの鏡素材の外壁には周辺の自然環境が映り込む  
建築設計：YANAGI + ART BASE

## YANAGI + ART BASE <https://yanagi-artbase.com/>

YANAGI + ART BASE は、アーティスト柳幸典が1995年に着想した「瀬戸内海の離島犬島の産業遺構をアートで再生するプロジェクト」を具現化した「犬島精錬所美術館」（2008年竣工）後の展開として、柳の構想やアイデアを具現化するために構成されるチームです。

国内外の美術館の構想や設計、産業遺構や遊休施設のアートによる再生など、建築家やデザイナー、職人らが協働し、アートを通じて社会に貢献できるプロジェクトを展開しています。また、尾道市の離島「百島」の廃校をリノベーションしたART BASE MOMOSHIMAを拠点に、空き家や廃墟の再生による地域資源の発掘、展覧会やイベントの企画など、柳によるメッセージをアートを通して発信し、アートによる地域社会の再生という新たな可能性を追求しています。

### 主なプロジェクト

#### 入魂の宿（2022年3月）

ディレクター／アーティスト：柳幸典 アーキテクト：榎原徹・竹澤洗人（榎原徹建築設計事務所）＋工学院大学榎原研究室  
マネジメント：つなぎ美術館、YANAGI STUDIO

廃校になったまま残されていた熊本県芦北郡津奈木町の赤崎小学校のスイミングプールを、アートと一体化した宿泊施設にリノベーションしたプロジェクト。水俣ゆかりの文筆家、石牟礼道子の詩「入魂」に着想した柳幸典のアート空間と、小さな動植物の世界を同じ目線で体験するアートに生まれ変わったスイミングプール。そして不知火海を撮影し続けた W・ユージン&アイリーン・スミスの写真が展示された特別な空間が、壊れやすい自然について思索を促す装置としての宿。



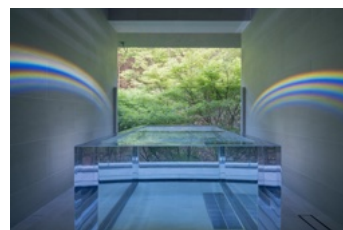
入魂の宿の外観 Photo by Road Izumiyama

#### すみや亀峰菴

#### アートギャラリー「百代」（2021年4月）、アートルーム「呼風」（2022年4月）

ディレクター／アーティスト：柳幸典 アーキテクト：八木健太郎 マネジメント：YANAGI STUDIO  
コラボレーター：石井直人（陶芸家）、山口源兵衛（帯匠）、久住章（左官職人）、ハタノワタル（和紙職人）

京都の奥座敷「湯の花温泉」の老舗旅館のロビーと客室を、盛唐の時代の詩人李白の「春夜桃李の園に宴するの序」冒頭からの着想と、京都の伝統と現代美術の融合をコンセプトに、現代美術が展示されるロビーとアートの中に宿泊する特別な客室にリノベーションしたアートプロジェクト。

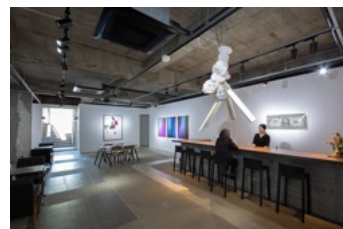


アートルーム「呼風」 Photo by Road Izumiyama

#### Gallery Cafe ULTRA（2019年5月）

ディレクター／アーティスト：柳幸典 アーキテクト：榎原徹・竹澤洗人（榎原徹建築設計事務所）  
マネジメント：YANAGI STUDIO

広島県尾道市の商店街にあった有休施設を、国内外の現代美術作品が鑑賞できるギャラリーカフェとしてリノベーションしたプロジェクト。



Gallery Cafe ULTRAの内観 ©YANAGI STUDIO

#### 百島 - 尾道 まちづくりプロジェクト（2010年3月ー）

尾道市の離島「百島」で廃校になった旧中学校舎をリノベーションした ART BASE MOMOSHIMA を拠点に、尾道駅前からのポートターミナルから百島までの間のまちづくりに関連した多数のプロジェクトが進行中。



ART BASE MOMOSHIMA の外観 ©YANAGI STUDIO

## プロフィール

### ディレクター：

#### 柳 幸典（アーティスト）

1986年より蟻を使った作品、フンコロガシのように土の玉を転がす作品など、美術のシステムの外で〈移動〉を切り口に発表を開始。1988年より渡米、米国イェール大学大学院アート&アーキテクチャーでビト・アコンチやフランク・ゲーリーらに学ぶ。フランク・ゲーリーのクラスで芸術家と建築家がコラボレーションをする授業を経験した際、日本では芸術家と建築家がセクショナリズムに陥っていることを痛感し、美術館の箱と中身は一体に構想されるべきであるとの思想から、犬島プロジェクト「犬島精錬所美術館」（1995-2008年）の着想に始まり、韓国の安佐島プロジェクト（2018-2024年）を具現化する。1993年ヴェニス・ビエンナーレのアペルト部門受賞。現在、瀬戸内海の過疎の離島の廃校をリノベーションして「ART BASE 百島」を立ち上げ、そこを拠点に創作活動とともにアートによる空き家の再生や地域資源の発掘などの地域づくりを2010年から行なっている。近年の主な展覧会は、シドニー・ビエンナーレ（2018年、オーストラリア）、「PSYCHIC WOUNDS: ON ART & TRAUMA」The Warehouse（2020年、ダラス）、個展「Wandering Position 1988-2021」ANOMALY（2021年、東京）、個展「YUKINORI YANAGI」Blum & Poe Los Angeles（2021年、ロサンゼルス）、ディルイーヤ・ビエンナーレ（2021年、サウジアラビア）など。



Photo by Hideyo Fukuda

### メンバー：

#### 梶原 徹（建築家）

建築家・工学院大学教授。1972年生まれ。京都大学工学部卒業。東京大学大学院工学系研究科修了。第6回ジャパンアートスカラシップ／グランプリ、D&AD Awards 2008 / Yellow Pencil (Silver Prize)、日本建築学会北陸建築文化賞、グッドデザイン賞など受賞多数。県営上屋3号倉庫、百島トイレ、戸崎港トイレ、入魂の宿、安佐島プロジェクトなど2014年より柳幸典とさまざまなコラボレーションを行う。

#### 八木 健太郎（建築家）

広島大学准教授。1973年東京生まれ。神戸、シアトル、ローマで建築とアートを学ぶ。2015年より現職。2018年グッドデザイン賞。すみや亀峰菴のリノベーションや尾道の茶園再生、小鷺島バイオイル計画における集落再生プロジェクトや、百島におけるまちづくり構想策定など、柳幸典の建築プロジェクトで協働。

#### 泉山 朗土（映像作家）

主に文化創作活動をテーマとしたドキュメンタリー映像制作を行う。

主な作品は『七面山日参行』（TRAILS IN MOTION 2018 出品）、『名前のない道』（The BFF New York 2014 招待）、『繋ぐひと』（十和田市現代美術館「田中忠三郎が伝える精神」出展）、『F2014』（福岡県立美術館「とととと？きおく×キロク＝」出展）。また、現代美術作家 Susan Norrie の《TRANSIT》（YOKOHAMA TRIENNALE 2011 出展）、《SHOT》（Edinburgh International Festival 2009 出展）の全撮影を手がけるなど、他アーティストの作品づくりにも貢献。柳幸典のプロジェクトでは諸所での映像制作をはじめ、犬島アートプロジェクトではその構想段階から実現までに深く関わる。